

■活躍が期待される背景 ワーク・ライフ・バランス

個人も会社も成長するワーク・ライフ・バランス

株式会社東レ経営研究所代表取締役社長 佐々木 常夫



ささき つねお
株式会社東レ経営研究所代表取締役社長
1969年東大経済学部卒業、同年東レ入社。
2001年東レ取締役となり、2003年より現職。
経団連理事、内閣府審議会委員、
大阪大学客員教授、神戸大学・同志社大学・桜美林大学の講師などの公職も歴任。

私はWAVE出版から『ビッグツリー 私は仕事も家族も決してあきらめない』という本を出しましたが、それは次のような書き出しで始まります。

「神様は私に試練を与えたというか、ちょっといたずらをされたようだ。私の長男は自閉症という障害を持って生まれ小さい頃から手がかり、私は幾度となく学校へ行かねばならなかった。また私の妻は肝硬変のため何度も入院を余儀なくされ、そのため妻や母としての役目を果たしていないという自分への責めや障害の長男のことなどが原因で、うつ病を併発してしまい入院は40回を超え3度の自殺未遂まで引き起こしてしまった。

一方、会社では、まるで私の力を試すかのように転勤が繰り返され、東京と大阪を6度も異動したものである。」

今から20年ほど前に妻が急性肝炎で3年ほど入院したとき、子供たちは中学2年、小学6年、5年でした。普段の日は毎朝5時半に起き3人分の子供の朝食と弁当を作り、8時前には出社し、当時私は課長になった時期でしたので課員が出社する9時までの間に自分と課員の仕事の計画を立て効率的に業務を遂行しました。

夕方6時に会社を出て7時に帰宅、急いで夕食を作り子供たちに食事をさせお風呂に入れ、宿題や次の日の用意をさせ、子供を寝かせたあとまた会社の仕事をするという毎日でした。

一方、会社では会議の数を減らしたり、資料は簡潔にするなど極力計画的効率的な仕事の進め方を行い極限までの業務の効率化に挑戦しました。

そのとき妻は3年ほどで退院し、しばらくは落ち着いていましたがその後、10年余り経って妻が肝硬変

とうつ病になりました。このときは経営企画室長というトップマネジメントのスタッフで多忙であったこともあり家族のための時間がなかなか持てなかったことから大変苦労しました。

幸い私が東レ経営研究所の社長になってからは時間に余裕ができ、妻へのサポートもできるようになりそれに伴って妻のうつ病も少しずつ回復してきました。

私は家族の病気と障害のため仕事の効率性を常に追求してきましたが、私の経験から考え、一般の会社の仕事は工夫次第で半分くらいの時間でできるのではないかと思います。

仕事にどっぷり浸かって、寝ても覚めても仕事のことを考えないと本物にはならないという人もいます。それはある意味正しいところもありますが、上司の指示の不適切さ、計画性のなさ、要領の悪さなどで、相当無駄な時間が費やされていることを忘れてはならないと思います。

ワーク・ライフ・バランスというのは、個人も会社も共に成長する生き方、働き方を指します。何故、いまワーク・ライフ・バランスなのかといいますと大きく三つの理由があります。

一つは、社員の満足度を高めることにつながることです。仕事を定時に終えて自分の好きなことができる、つまり本を読んだり、映画をみたり、友人と会ったり、そして最も大事な家族とのコミュニケーションがとれる。こういったことは社員一人一人が頑張る気持ちになります。定時に帰るので体調も良く、そんな状況であればいいアイデアも出るわけですから会社の仕事にとってもプラスです。

二つ目の理由は、例えば、私のように子供の夕食を作るためどうしても夕方には会社を出なくてはならないといった状況に置かれれば、猛烈なスピードで

仕事をせざるを得ないのです。のんびり会議をしたり資料を作ったりしてられません。書類も読む必要のないものは飛ばしますし、会議も人に会う時もしっかり時間管理をします。つまり、確実に生産性が上がるということで、こうしたことはチームで会社の仕事をしている以上、組織全体の生産性向上につながっていき、その企業の競争力を強化することになるのです。

3番目の理由は、ワーク・ライフ・バランスを実践する会社は働きやすい会社として世に知られ、優れた人材が集まってくることにつながります。一方その会社の社員は、満足度も高く、優秀な社員の定着率が向上するというメリットがあります。

一般に女性社員が、出産、育児の課題で約70%が退社していくといわれています。入社して10年ほど

が経ち、さあ、これから会社に貢献してもらおうと思っている女性社員がむざむざ会社を辞めていくわけです。その代わりということで新入社員を採用し、再び教育投資をするという、大きな無駄が発生してしまいます。

ワーク・ライフ・バランスによって社員は心身とも健康になり自分の会社に誇りを持ち、会社は社員からフレッシュな発想を得つつ生産性向上という大きな成果を確保でき、競争力を強めていくことになります。

仕事中心で家庭を省みず育児にも家事にも参加しない男性は、家族との深いコミュニケーションもできず、したがって家族との信頼関係も築けず、その上場合によっては長時間労働のため自分の健康を損ねるという大きなマイナスも生じてしまうことは避けなくてはならないと思います。

ワーク・ライフ・バランスは「明日への投資」

仕事と生活の調和を大切にするワーク・ライフ・バランスは、企業の成長・発展にとっても重要です。優秀な人材の確保・定着や、社員の満足度や意欲の向上、多様な人々を活かした競争力の強化といった観点からも不可欠な取組であり、いわば各企業の将来の成長・発展につながる「明日への投資」と言えます。

■仕事と育児の両立を支援する取組が、企業業績に与えるプラス面

